

平成25年9月6日

各 位

上場会社名 株 式 会 社 フ ル ス ピ ード
(コード番号：2159 東証マザーズ)
本社所在地 東 京 都 渋谷 区 円 山 町 3 番 6 号
代 表 者 代表取締役社長 田 中 伸 明
問 合 せ 先 管理本部副本部長 栗 田 洋
電 話 番 号 03-5728-4460 (代表)
(URL <http://www.fullspeed.co.jp/>)

(再訂正)「平成23年7月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について

当社は、平成23年9月13日付「平成23年7月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」について、平成25年7月26日付けで一部内容の訂正を行っておりますが、今般、さらに一部訂正個所が生じたため、再度訂正となりましたので、下記の通りお知らせいたします。

なお、訂正個所は下線にて表示しております。

記

再訂正箇所

①2ページ

1. 経営成績

(1) 経営成績に関する分析

(再訂正前)

<前略>

このような事業環境の中、当社グループは、独自の法人支援プラットフォーム「フルスピードクラブ」を通じ、インターネットマーケティングを中心とした各種サービスの提供に注力してまいりました。グループ全体で積極的に事業活動に努めたことにより、前年同期と比較し8.9%の増収となりました。一方、利益においては、当第3四半期連結累計期間までのノンコア事業（アパレル事業等）における販売費及び一般管理費の増加や、当該事業を運営する子会社ののれん償却（連結調整勘定）が負担となり赤字基調となったものの、平成23年5月13日付で公表しましたとおり、アパレル事業の売却を当第4四半期連結会計期間において実施したため、当第4四半期連結会計期間は黒字基調であるコア事業のみとなり、通期においても営業黒字を確保することができました。

しかしながら、アパレル事業の売却においてはノンコア事業の切り離しとして、今後の当社の成長においては経営リソースの集中が可能になることや財務負担の軽減につながることから前向きな施策であるものの、アパレル事業を運営する株式会社ギルドホールディングスおよびギルドコーポレーション株式会社の株式を譲渡したことにより、当第3四半期連結会計期間において、子会社株式の譲渡に伴う損失719,907千円を計上することとなりました。また、同じくノンコア事業に位置付けている株式会社JPSののれん償却80,599千円に加え、投資有価証券評価損141,147千円等を特別損失として計上したことにより、当期純損失を計上することとなりました。

以上により、当連結会計年度における売上高は15,201,648千円（前年同期比8.9%増）、営業利益20,250千円（前年同期は営業損失302,877千円）、経常損失66,334千円（前年同期は経常損失455,827千円）、当期純損失1,322,680千円（前年同期は当期純損失1,678,387千円）となりました。

<後略>

(再訂正後)

<前略>

このような事業環境の中、当社グループは、独自の法人支援プラットフォーム「フルスピードクラブ」を通じ、インターネットマーケティングを中心とした各種サービスの提供に注力してまいりました。グループ全体で積極的に事業活動に努めたことにより、前年同期と比較し8.9%の増収となりました。一方、利益においては、第3四半期連結累計期間までのノンコア事業（アパレル事業等）における販売費及び一般管理費の増加や、当該事業を運営する子会社ののれん償却（連結調整勘定）が負担となり赤字基調となったものの、平成23年5月13日付で公表しましたとおり、アパレル事業の売却を当第4四半期連結会計期間において実施したため、当第4四半期連結会計期間は黒字基調であるコア事業のみとなり、通期においても営業黒字を確保することができました。

しかしながら、アパレル事業の売却においてはノンコア事業の切り離しとして、今後の当社の成長においては経営リソースの集中が可能になることや財務負担の軽減につながることから前向きな施策であるものの、アパレル事業を運営する株式会社ギルドホールディングスおよびギルドコーポレーション株式会社の株式を譲渡したことにより、第3四半期連結会計期間において、子会社株式の譲渡に伴う損失707,576千円を計上することとなりました。また、同じくノンコア事業に位置付けている株式会社JPSののれん償却92,930千円に加え、投資有価証券評価損141,147千円等を特別損失として計上したことにより、当期純損失を計上することとなりました。

以上により、当連結会計年度における売上高は15,201,648千円（前年同期比8.9%増）、営業利益20,250千円（前年同期は営業損失302,877千円）、経常損失66,334千円（前年同期は経常損失455,827千円）、当期純損失1,322,680千円（前年同期は当期純損失1,678,387千円）となりました。

<後略>

②3ページ

(再訂正前)

＜アパレル事業＞

当第3四半期連結累計期間までにおいて、当事業では様々な販売施策や広告宣伝施策を講じるなど積極的な販売活動を行ってまいりましたが、個人消費の低迷や低価格攻勢に加えて、東日本大震災の影響を受けたこと等により、厳しい事業展開を強いられる結果となりました。

＜後略＞

(再訂正後)

＜アパレル事業＞

第3四半期連結累計期間までにおいて、当事業では様々な販売施策や広告宣伝施策を講じるなど積極的な販売活動を行ってまいりましたが、個人消費の低迷や低価格攻勢に加えて、東日本大震災の影響を受けたこと等により、厳しい事業展開を強いられる結果となりました。

＜後略＞

③7ページ

1. 経営成績

(4) 事業等のリスク

(再訂正前)

⑤その他

(g) 継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況

当社グループは、当第3四半期連結会計期間においてはアパレル事業を営む子会社株式の譲渡に伴う特別損失707,576千円を計上したこと等により、当期純損失1,322,680千円を計上したため、純資産が11,554千円と大幅に減少しました。

＜後略＞

(再訂正後)

⑤その他

(g) 継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況

当社グループは、当連結会計年度においてはアパレル事業を営む子会社株式の譲渡に伴う特別損失707,576千円を計上したこと等により、当期純損失1,322,680千円を計上したため、純資産が11,554千円と大幅に減少しました。

＜後略＞

④15ページ

4. 連結財務諸表

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

(再訂正前)

(連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年 8 月 1 日 至 平成22年 7 月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 8 月 1 日 至 平成23年 7 月31日)
少数株主損益調整前当期純損失 (△)	—	△1, 340, 648
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	24, 681
その他の包括利益合計	—	※2 24, 681
包括利益	—	※1 △1, 315, 967
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	—	△1, 201, 059
少数株主に係る包括利益	—	△114, 907

(再訂正後)

(連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年 8 月 1 日 至 平成22年 7 月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 8 月 1 日 至 平成23年 7 月31日)
少数株主損益調整前当期純損失 (△)	—	△1, 340, 648
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	24, 681
その他の包括利益合計	—	※2 24, 681
包括利益	—	※1 △1, 315, 967
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	—	△1, 297, 998
少数株主に係る包括利益	—	△17, 968

以上